

特別講演

主催 埼玉医科大学栄養部運営委員会NST準備委員会 ・ 後援 埼玉医科大学卒業教育委員会
平成17年11月16日 於 埼玉医科大学第一講堂

NST (栄養サポートチーム)稼働施設の実務の実際について ～ 管理栄養士の立場から～

佐藤 敏子

(自治医科大学大宮医療センター栄養室長)

臨床栄養の課題は①生活習慣病対策②低栄養対策③チーム医療と専門性の3つがある。その背景を支えるものは病院給食におけるフードサービスの充実である。自治医科大学大宮医療センターは病床数408床、給食業務は委託である。栄養管理をスムーズに実施する上で献立管理を施設側栄養士が受け持ち、低栄養状態の患者などへの食事対応がタイムリーに行われている。栄養指示は医師により、オーダーリングシステムでおこなわれ、食札に料理名と栄養量等の記載をしている。禁止食など治療上必要な個別対応については複雑になりやすいので、栄養士と相談の上、医師が入力するシステムをとっている。

NST稼働までの院内活動は①糖尿病療養指導士として、教育入院のスタッフミーティングに参加し他スタッフと連携をとりながらクリティカルパスに準じた栄養指導を行う、②腎臓病患者の指導においては、蓄尿データ、身体計測、血液検査のデータなどから栄養摂取量の推定をし、透析カンファレンスを基盤とした活動、③認知症患者への栄養介入などといった栄養士の参画、又、それらの経験を医師、他職種との共同研究活動として学会報告するなど、既にチーム活動が構築されていた。そのような中で、病院機能評価を受審することとなり、センター長からNST立ち上げの発信があり、栄養委員会やコメディカル会議において、NST稼働を実現させていった経緯が語られた。

自治医科大学大宮医療センターのNST組織はセンター長を頂点とし、チェアマン、チーフディレクター(医師)、アシスタントディレクター(医師2名)、スタッフ(看護師2名、薬剤師2名、臨床検査技師2名、管理栄養士2名)の構成に加えて、メディカルアドバイザー(医師4名)が加わり構成されている。

NSTオーダーと栄養介入の流れは(図1)であるが、

オーダーは栄養指導入院予約システムにて行い、モニタリングは既存にある看護のケーススタディーシートを活用するなどの工夫、新しく作成した「栄養評価シート」は疾患別に5種類用意されている。輸液情報は薬剤部から、検査部からはプレアルブミンなどグラフを貼付して事務局(栄養部)に送られてくる。情報交換は学内LANを活用するなど簡便に且つ、効率的に行っている。又、自治医科大学大宮医療センターのNST運営規定、「任務」の項の紹介もあった。

NSTの具体的な活動は週1回、NSTカンファレンスを実施しており、担当患者主治医のプレゼンテーション、看護師のプレゼンテーション、他スタッフのプレゼンテーション、そしてNSTスタッフによるラウンド、カンファレンス(評価)、治療方針の決定、主治医が指示オーダー発行といった流れになっている。他、NST普及のために「NSTニュース」を学内LANで、Eメールを持っている医師すべてに配信している。

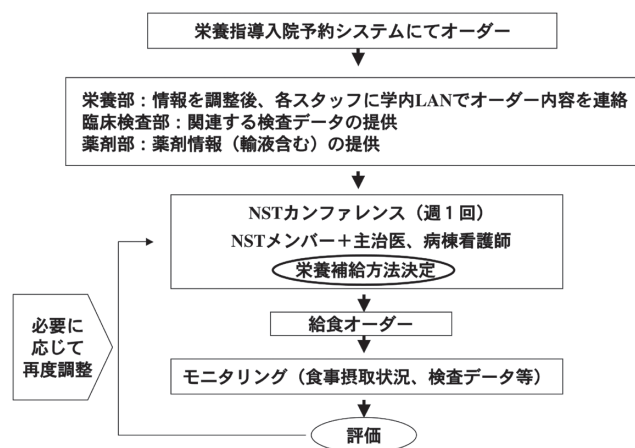


図1. NSTオーダーの流れ.

具体的な栄養評価としてはハリスベネディクトの式が登録されている電卓を用いて、基礎代謝量を算出し慎重に必要栄養量をもとめた上で、栄養治療の方針を出している。又、栄養評価シートの記載例、輸液と経腸栄養剤併用の栄養プランなどの紹介があった。その他、医療スタッフ自らが治療食を体験し、経腸栄養剤やミキサー食、半固形食を知るなどの機会の場も設けている事が生き生きと語られた。

スクリーニングは褥瘡対策チームと連携し、アルブミン値 3.0 g/dl未満の場合、NSTに連絡があり、栄養状態の再評価と、栄養補給方法全般(輸液を含む)を検討している。これは、少ないスタッフで効果を出すための工夫点である。自治医科大学大宮医療センターの今後の課題は、①NSTのさらなる普及活動、②NSTスタッフの増員、③専用予約システムの構築、④NST栄養評価シートの電子カルテ化が挙げられているとのことであった。

Q&A

Q: はじめから全科型でしたか？

A: スタッフが少ないので、最初は欲張らずに始めた。今では、各科からの依頼が増えつつある

Q: 依頼の件数はどのくらいですか。ラウンドの時間の作り方のポイントは？

A: 現状は1ヶ月に20~30例をみている。初回は30分、継続はあらかじめ問合せしラウンドしない場合もあるが、ラウンドする場合もタイムキー

パーを作るなど工夫している。

Q: 経口摂取のままならない褥瘡患者の介入はどのようにされていますか？リンクナースはいますか？

A: まず褥瘡対策チームに投げかけてから介入している。はじめからスタッフに入っていたのでやり易かった。若い看護師さんにNSTのラウンドやカンファに参加してもらっている。

Q: 言語聴覚士はチームに入っていますか？

A: 嚥下のことなどあるので是非、言語聴覚士さんには入って頂きたいと考えているが、当センターでは実現出来ていません。

Q: NST立ち上げの際、医師への働きかけはどのようにしたら良いでしょうか？

A: 院内には、TNT(日本静脈経腸栄養学会主催の栄養療法トレーニング)の講習を受けている医師を探してみると良いと思います。又、輸液が得意な医師もいます。

Q: 食べる事は大切。入院患者はなおさらなのに、診療報酬から外そうという流れに反対です。こういう時代にNST活動には是非、加算がとれることを願っている。

A: 自治医大大宮センターでも、事務部門によく説明に伺った。メンバーにも入っていただいている。

以上の他にも質問や意見が交わされ、力強い回答をいただきました。そして経営に結びつくことを願う思いが傾聴する皆にも伝わる講演でありました。

(文責 坂本香織)